

# フィレンツェの歴史地区

## 基本データ

### 所在地

フィレンツェ（イタリア・トスカーナ州）

### 主な建造物

- サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂
- ヴェッキオ宮殿
- ウフィツィ美術館
- ピッティ宮殿
- ボーボリ庭園
- サンタ・マリア・ノヴェッラ教会
- サンタ・クローチェ聖堂

登録区分 文化遺産

登録基準 (i), (ii), (iii), (iv), (vi)

登録年 1982年



## フィレンツェの歴史地区について

フィレンツェは紀元前59年、アルノ河畔にローマの植民市として建設されました。そして13世紀、新興の商工業市民層が都市政府や同職組合を構成し、毛織物業で成長しました。ルネッサンスのシンボルであるフィレンツェの街は、メディチ家の統治の下、主に15～16世紀に経済的・文化的に繁栄しました。600年経った今でもミケランジェロや、ボッティチェリなどの著名な芸術家の名作の数々が残されています。

中でもサンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂は最も重要な教会で、ドゥオーモと、サン・ジバンニ礼拝堂、ジョットの鐘楼の3つの建物から構成されています。この大聖堂の建造は1296年9月8日、フィレンツェの威信をかけて教皇ボニファティウス8世の資金援助の下始められましたが、最初の設計者アルノルフオ・ディ・カンビオは起工直後に死去し、彼の作った模型も散逸してしまいました。そんな中クーポラ(円屋根)のコンクールで選ばれたブルネッレスキが建築を担当し、1436年3月25日大聖堂の献堂式が行われました。

### 参考

1. 中嶋浩郎・中嶋しのぶ『素顔のフィレンツェ案内』（白水社、1996年）
2. イタリア政府観光局「フィレンツェ歴史地区」(<http://visitaly.jp/unesco/centro-storico-di-firenze>、2018年5月29日アクセス)
3. 松本典昭『ノボロンたちのルネッサンス』（NHKブックス、2007年）



## フィレンツェ歴史地区・旅行記

フィレンツェの中心駅、サンタ・マリア・ノヴェッラ駅からしばらく歩くともう巨大なオレンジ色のドゥオーモのクーポラが姿を現してきます。近づく、その迫力と美しさに圧倒されます。ドゥオーモ広場はとにかく人でごった返しています。時々地面に絵画を置いている人がいて、うっかり踏んでしまうとお金を取られるそうなので気を付けてください。

まずはジョットの鐘楼に上ってみることに。薄暗い中狭くて細い螺旋階段が続き、途中で降りてくる人を待ったりなどして、足も疲れてきますが頑張る上ること約10分。最高の景色に疲れも吹っ飛びました！上は歩いて一周できる展望台になっていて、中世から変わらない美しいフィレンツェの街並みが一望できます。この「レトロさ」がフィレンツェの魅力でしょうか。ジョットの鐘楼より少し高いドゥオーモのクーポラを見ることができます。この後ドゥオーモに上ろうとしたのですが、1時間も並んだのにまさかの整理券を取り忘れて入口で追い返されるという悲劇が。必ずチケット売り場でドゥオーモの入場予約をしておきましょう。

ウフィツィ美術館では有名なボッティチェリの「ヴィーナスの誕生」や「春」を見ることが出来ます。閉館間際に行ったので人も少なくゆっくり鑑賞できました。ヴェッキオ橋は夕方が絶対におすすめです。美しい夕日と暗くなっていく空、川の水面に映る光が本当に素敵です。(2018年3月20日訪問)

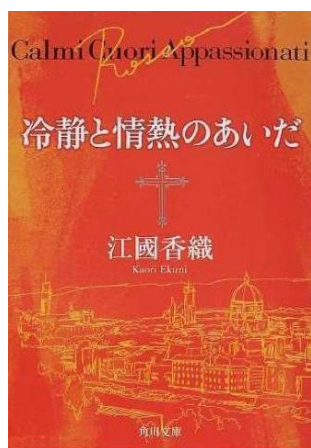


ジョットの鐘楼・展望台からの眺め  
2018年3月20日筆者撮影



ヴェッキオ橋周辺の夜景  
2018年3月20日筆者撮影

## 本の紹介



### 江國香織『冷静と情熱のあいだ Rosso』

イタリア・ミラノに住んでいる主人公あおいは昔の恋人のことが忘れられず、30歳に2人でフィレンツェのドゥオーモに上るという約束を覚えていて…。

イタリアでのロマンチックでおしゃれな生活が女性側の視点から描かれ、読んでいただけで旅行気分になります。最後のフィレンツェのドゥオーモの頂上からの景色の描写が素敵です。ちなみに元恋人の男性側の視点から辻仁成が執筆したバージョン(『冷静と情熱のあいだ Blu』)も合わせて読むとより面白いと思います。

👉【配架場所】本館3階 【請求記号】9100:2904

## 自己紹介



氏名 T. W.

所属・学年 国際・公共政策大学院修士課程1年

趣味は音楽鑑賞、旅行、カフェ巡りです。

今年の春休みにイギリス、イタリア、オーストリア、チェコを回りました。

写真はウィーンで食べた絶品ザッハトルテです！